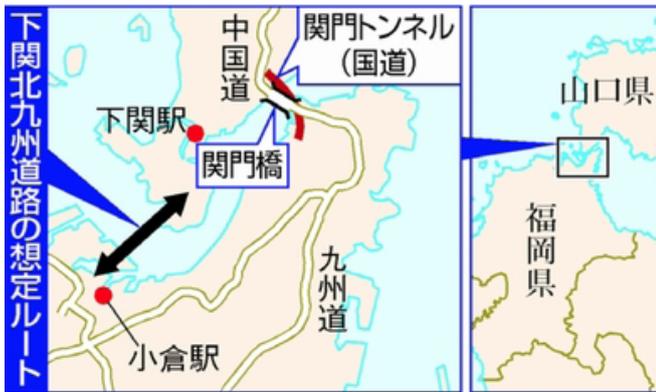


「忖度(そんたく)」発言の下関北九州道路

安倍首相が自ら

「陳情」や指示か!?

共産党が国会で追及



下関北九州道路(山口県下関市—北九州市)整備計画の調査を今年度から国直轄事業に移行させた決定について、自民党の塚田一郎・国土交通副大臣が「総理とか副総理が言えないので私が忖度(そんたく)した」と発言した問題で、日本共産党は4月4日の参院決算委員会で、背景に安倍晋三首相の「陳情」や指示があったのではないかと追及しました。

そもそも、この道路計画は2008年に凍結されたもの。ところが、与党の国会議員有志らで作る「関門会」が2016年に国交大臣にあてに提出した要望書には「下関北九州道路の早期実現をはかること」や「具体的な検討を進め、調査を実施するとともに必要な予算を確保すること」を要求していました。しかもその「関門会」の要望書に安倍首相の名前がある事実を突きつけ、「(首相自身が)そうやって忖度させてきたのではないかと追及しました。

安倍首相は「関門会」のメンバーであることは認めましたが「要望書は初めて知った。私は陳情する立場にはない」と言い逃れました。

そこで共産党は、さらに新聞報道をもとに、「実際に安倍首相は官邸で推進議員と会談し、『早期実現に向けた活動にしっかり取り組むように』(昨年10月25日)と整備に意欲を見せている。これは(塚田氏の)忖度と言うより、あからさまな指示ではないか」と告発しました。

「血税私物化」政治に審判を

塚田副大臣は辞任しましたが、辞めてすむ話ではありません。目に余る血税私物化、利益誘導政治の実態の徹底説明が必要です。日本共産党を伸ばし、安倍自民・公明政権に厳しい審判を下しましょう。

参議院議員(東京選挙区選出)

きらよしこ



吉良よし子

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2019年4月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党